

令和3年度第1回草津市地域福祉推進市民委員会における主な御意見に対する市の考え等について

項目	主な御意見	市の考え等
【人材育成等について】	<p>地域における人付き合いが希薄になる中で地域で活動するリーダーを育成する事が大切。リーダーを養成、育成する事にあたって、その方の得意分野を把握し積極的に地域で活動してもらうことを目指すことが重要ではないか。</p>	<p>地域福祉計画の中でも、リーダー・人材育成、住民活動の機会や場の提供、また、住民同士の仲間づくりや交流の場づくりといった視点を重点プログラムに位置づけており、今後、各事業・施策を展開してまいります。</p>
【災害時個別避難計画について】	<p>県が、防災と保健・福祉の連携推進モデル(滋賀モデル)として災害時における要支援者について個別避難計画を作成するとしています。各市町が主体となって、滋賀モデル推進協議会(仮称)を設置し、防災、医療、保健、福祉、地域の多くの職種が協力して、広く研修やアセスメントなどを行い、最終的に個別避難計画を作成し共有するというものです。令和3年度は大津市と高島市をモデル地区として開始し、令和4年度から全県に展開する計画のようです。当委員会としても、滋賀モデルへの協力など検討していくべきではないかと考えます。</p>	<p>本市では、危機管理課と連携のもと、要援護者支援班(長寿いきがい課)が主体となって当計画の作成について検討を進めているところでございます。今後、検討状況に応じて情報発信をしてまいりたく考えております。</p>
【コロナ禍における活動について】	<p>昨今、新型コロナウイルス感染の猛威が続いている中、様々な活動が制約されてきた。その中で、今この状況にある中、いかに市民が暮らしに根ざした交流ができるか、この中でできる事があるかを見つけて、取り組まなければならない。「コロナ禍」による困難にもかかわらず、地域福祉活動において人々の支えあい・助け合いの活動が見出され、住民と行政が一緒になって「コロナ禍」に立ち向かう姿を書き込むことが、大事ではないでしょうか。</p>	<p>地域福祉計画の中でも、災害や感染症対策といった視点を重点プログラムに位置づけております。今後も、新型コロナウイルス感染症に関連する各種支援策を実施するとともに、当感染症がまん延する状況下にあっても地域活動を絶やさないよう、感染症対策に配慮をしながら各事業・施策を展開してまいります。</p>
【高齢化等について】	<p>一番大切な地域の中で活動する人を見つけ出す事、最近特に仕事や生活の為に活動はしたいができない社会になってきました。若者に参加する気持ちをもってもらいたいが、生活・活動にゆとりのある老人は年を取りすぎている。</p>	<p>本市では、「地域共生社会」の実現に向け、世代や属性を問わない相談支援、参加支援、地域づくりの検討を進めているところでございます。特に、地域活動に関しては、年代を問わず幅広く参加いただくことで、持続可能な活動が期待できますことから、多世代型の福祉のまちづくりを検討してまいりたく考えております。</p>
【その他御意見】	<p>誰もが安心して暮らせるよう、地域共生社会の実現に向けて、地域包括システムの充実など、誰ひとり取り残さない事を重要目標とし、今後とも継承される事が重要と感じる。様々な取り組みについて、市が何をしたのか、関係団体が何をしたのか等、どの団体が何をしたのかを明確にしていくべきだと考えます。高齢者や生活困窮者への下支えとなる勤労世代の人達の理解や参画しやすい社会環境がいかに整っていくかが大事な課題。</p>	<p>諸々頂戴いたしました御意見につきましては、各事業・施策の実施にあたっての参考とさせていただきます。</p>